

1. 件名：ALPS 処理水の測定対象核種の選定に関する検討状況に係る面談
2. 日時：令和3年10月18日（月）13時30分～15時05分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者
原子力規制庁
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
竹内室長、岩永企画調査官、澁谷企画調査官、正岡管理官補佐
知見主任安全審査官、高松専門職、横山係長、久川係員、杉浦技術参与
吉田技術参与、近藤技術参与、平山技術参与、鈴木技術参与、林技術参与
（テレビ会議システムによる出席）
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
プロジェクトマネジメント室 担当1名
福島第一原子力発電所 担当7名（うち、テレビ会議システムによる出席3名）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、ALPS 処理水の海洋放出時に測定する核種（以下「測定対象核種」という。）の選定に関する検討状況について、資料に基づき以下の説明があった。
 - ALPS 処理水の測定対象核種の選定に関する検討の流れについて
 - ✓ ALPS 処理水の測定対象核種の選定については以下の流れで検討を行うことを予定している。
 - ① 過去に ALPS 除去対象核種（62 核種）、H-3、C-14 を選定した際の考え方を整理する。
 - ② ①の考え方を踏まえて、上記 64 核種以外の核種のうち、ALPS 処理水中に有意に含まれる可能性が排除できない核種（以下「その他核種」という。）の存在の有無を確認する。
 - ③ ①、②のうち、半減期の評価から存在量が十分小さい核種等、測定する必要がない核種を整理する。
 - ④ ①～③の検討を踏まえて、ALPS 処理水の海洋放出開始前までに ALPS 処理水等の測定を行い、上記の評価が適切であることを確認する。
 - その他核種に関する検討について
 - ✓ 廃止措置や埋設施設で検討されている研究を参考に調査した結果、その他核種として、Fe-55、Ni-59、Mo-93、Sn-121m の 4 核種が考えられる。
 - ALPS 除去対象核種（62 核種）、H-3、C-14、その他核種の測定要否に関する検討について
 - ✓ ALPS 除去対象核種（62 核種）及びその他核種について、サブドレン他水処理施設の核種選定を参考にしつつ、震災直後からの経過時間による減衰を考慮して、測定対象から除外できる核種がないか検討を行う。
 - ALPS 処理水等の事前測定に関する検討について
 - ✓ その他核種として検討した Fe-55、Ni-59、Mo-93、Sn-121m の 4 核種及び ALPS 処理水中に有意に含まれる可能性が排除できないアルファ核種については、外部機関を利用した事前測定を計画している。

- 原子力規制庁は、上記説明内容を確認し、以下のとおりコメントを行った。
 - ALPS 処理水の測定対象核種の選定を検討するにあたっては、ALPS 処理水中に含まれないことが証明できない核種の存在の有無を確認した上で、測定が困難であり、評価で放射能濃度を判断せざるを得ない核種については、選定プロセスに対する品質管理上の取扱いも含めて検討すること。
 - その他核種として、廃止措置や埋設施設の調査結果から Fe-55、Ni-59、Mo-93、Sn-121m を選定した際の検討内容の詳細について示すこと。
 - 震災直後からの経過時間による減衰によって告示濃度限度比が 1/100 以下となった核種の測定を除外することを検討していることについて、判断基準や根拠等を明確にすること。

6. その他

資料：

- ALPS 処理水の測定対象核種について